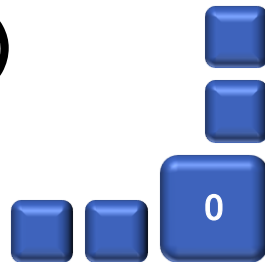

持続可能な暮らしとコミュニティの未来 その3

都市型の持続可能なコミュニティの挑戦!

2010年7月

HOSP! 事務局長 鏑木孝昭

（協力：株式会社コミュニティネット）



持続可能なコミュニティを、本気でつくる、大人たちの会

- ◆民主主義と市場経済は人類が生み出した優れた仕組み。
課題があるのは現代の資本主義
- ◆資本主義は、人間について狭い見方をとっている。
＝ 人間は最大の利益を追求する一次元的な存在である
- ◆私たちには自然な願望がある。
「できれば周囲の環境をよくしたい」
「できることなら仲間であるほかの人間の生活を良くしたい」
- ◆「自然な願望」が発揮されるとき、人と人、人と自然、人と社会との関係性が豊かになる。私たちは、この「自然な願望」、「豊かな関係性」、および自然資産を賢く活用したり社会を賢く運営したりする「知恵」、のような目に見えない資産を重視し、この目に見えない資産を「信頼資本」と名づけ、それが流通し、蓄積・活用する社会の実現を目指す。
- ◆まず、見捨てられた資産を価値化する。そして、流通させる。
さらに、得た経済力で社会に向かって要求を発することが必要。

HOSP！的事業－ アミタ京丹後での取り組み(アミタ資料+α)

○1haあたり、0.5～2頭の放牧 →ふん尿の自然循環が可能

○牛の蹄で山を耕し、草地を形成する。(蹄耕法)

○365日、昼夜周年放牧

○輸入飼料に依存せず、森林の下草を活用する(舌草刈)

この牛から牛乳（価格は高い）の牛乳がずっと売れ続けている → 自然資産を増しつつ、事業が成り立つ



森林ノ牛乳



多くの仲間が既に地域で取り組む：アマタ、CN協会、えがおつなげて等

(その1) 北杜プロジェクト(都市・農村交流)



曾根原さん

(その2) 京丹後プロジェクト(森林酪農、資源型地域循環)



佐藤さん

(その3) 那須プロジェクト(百年コミュニティ、統合医療)



近山さん

(その4) 吉賀町プロジェクト(地域福祉、病院連携)



小泉さん

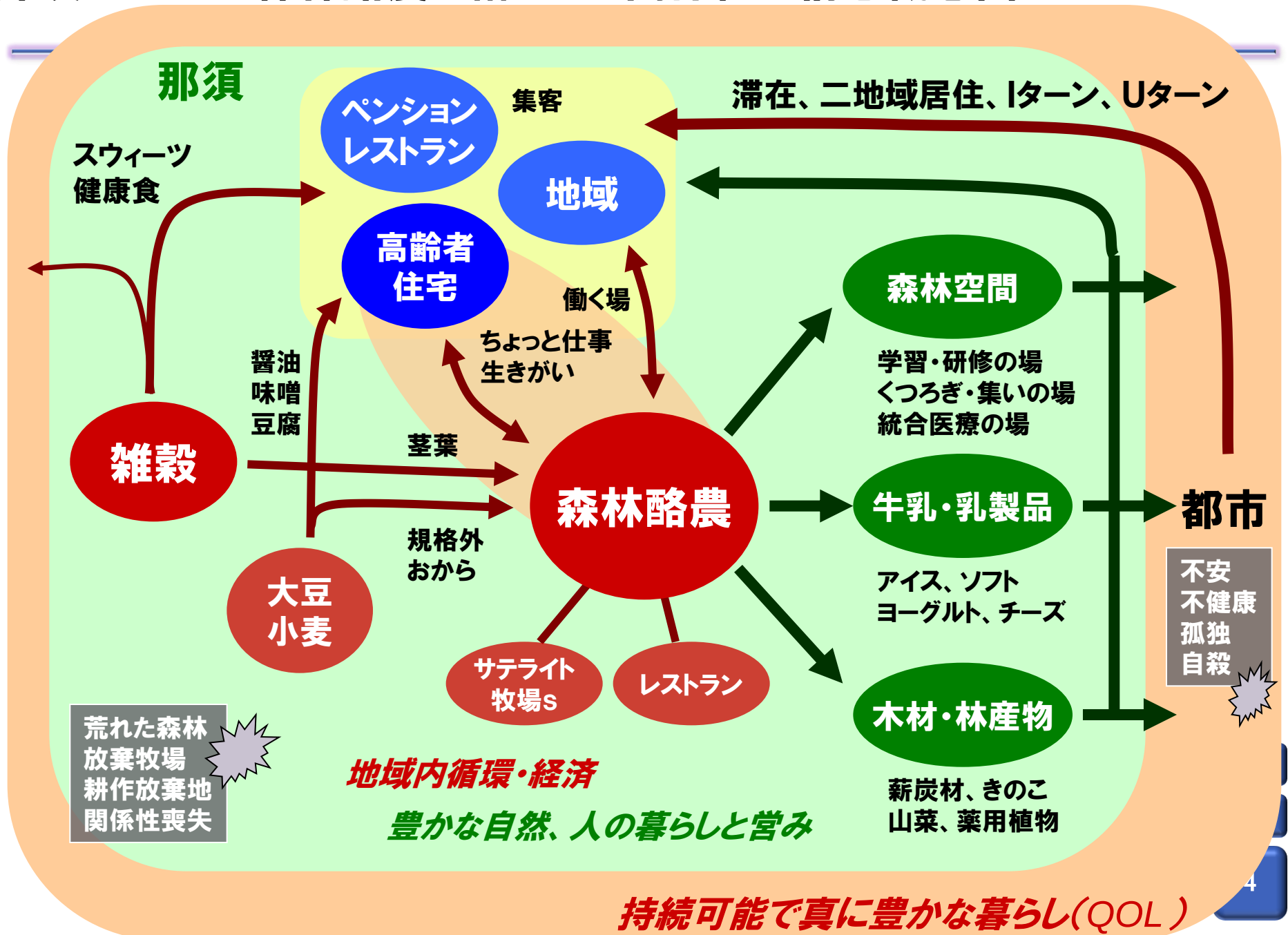
(その5) 都市型プロジェクト(都市での実験場)



鍋木

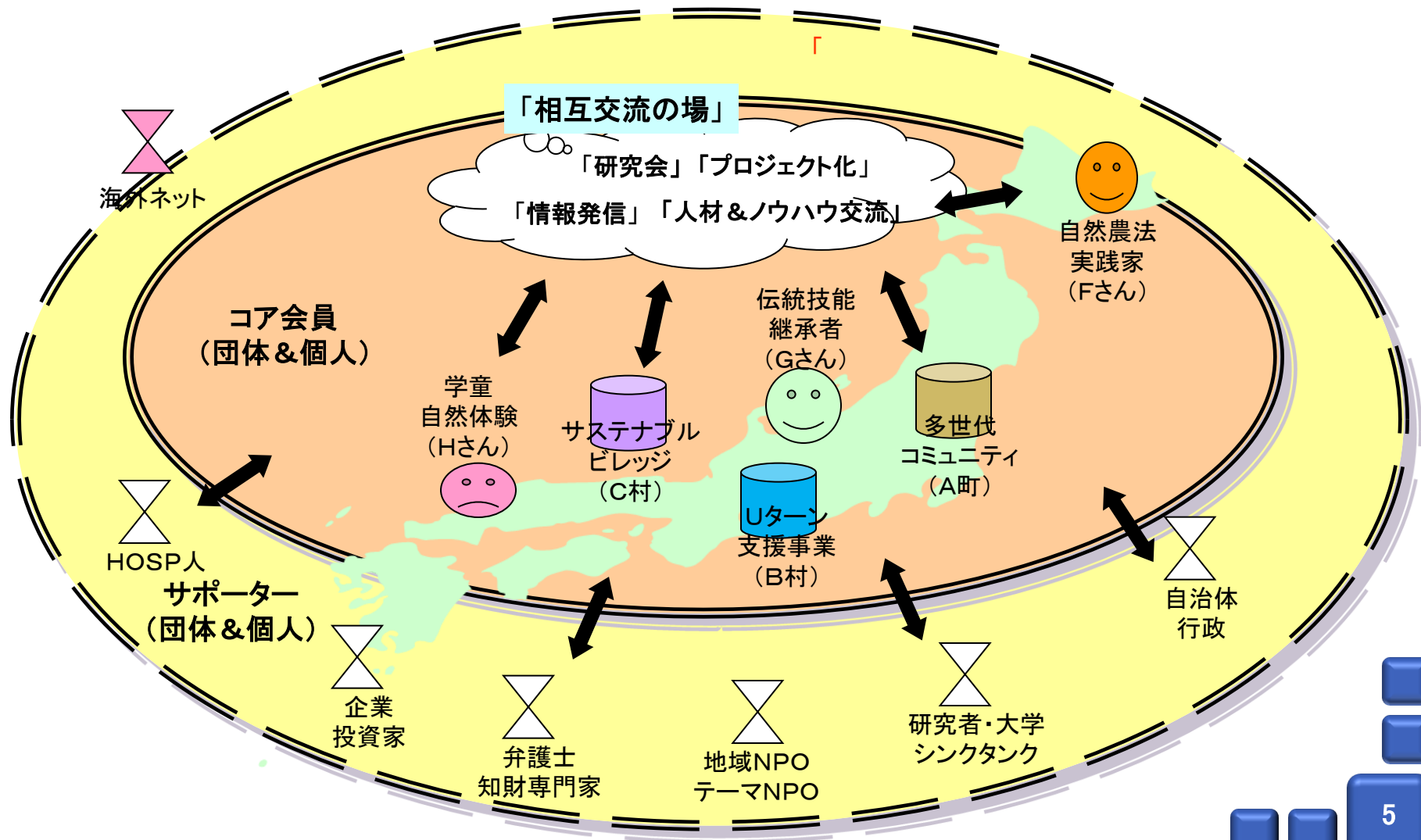
(その他) 候補地が各地区に(北海道厚沢部町が離陸！)

那須における 森林酪農を軸にした関係性の構想概念図



「HOSP！のイメージ」

コア会員：メーリングリスト等で密な連携
サポーター：メールマガジンで情報共有



HOSP！が取り組むこと

◆(1)本気で活動する仲間を集める

◆(2)相互活動触発

目的とする社会づくりに資する事業や活動を行なっている事業者・団体との意見交換会を、できるだけ事業・活動の現場で行なう。「みんなで学び続ける」活動である以上に、触発しあって行動をより活発にしたり、新しい行動を生み出す機会を作ることが目的としている。

◆(3)「場デカラ」を有効活用する

めざす社会を作るためには、自分たちでできる事業だけでなく、社会の仕組みや法制度を変更する必要もでてくる。そのために集まった人・団体の「場デカラ」を有効に活用し、社会や政治への働きかけをする。

★★ ベースライン事業 「HOSP! 旅塾(タビジユク)」

★★ 特別プロジェクト 「都市型HOSP! 」

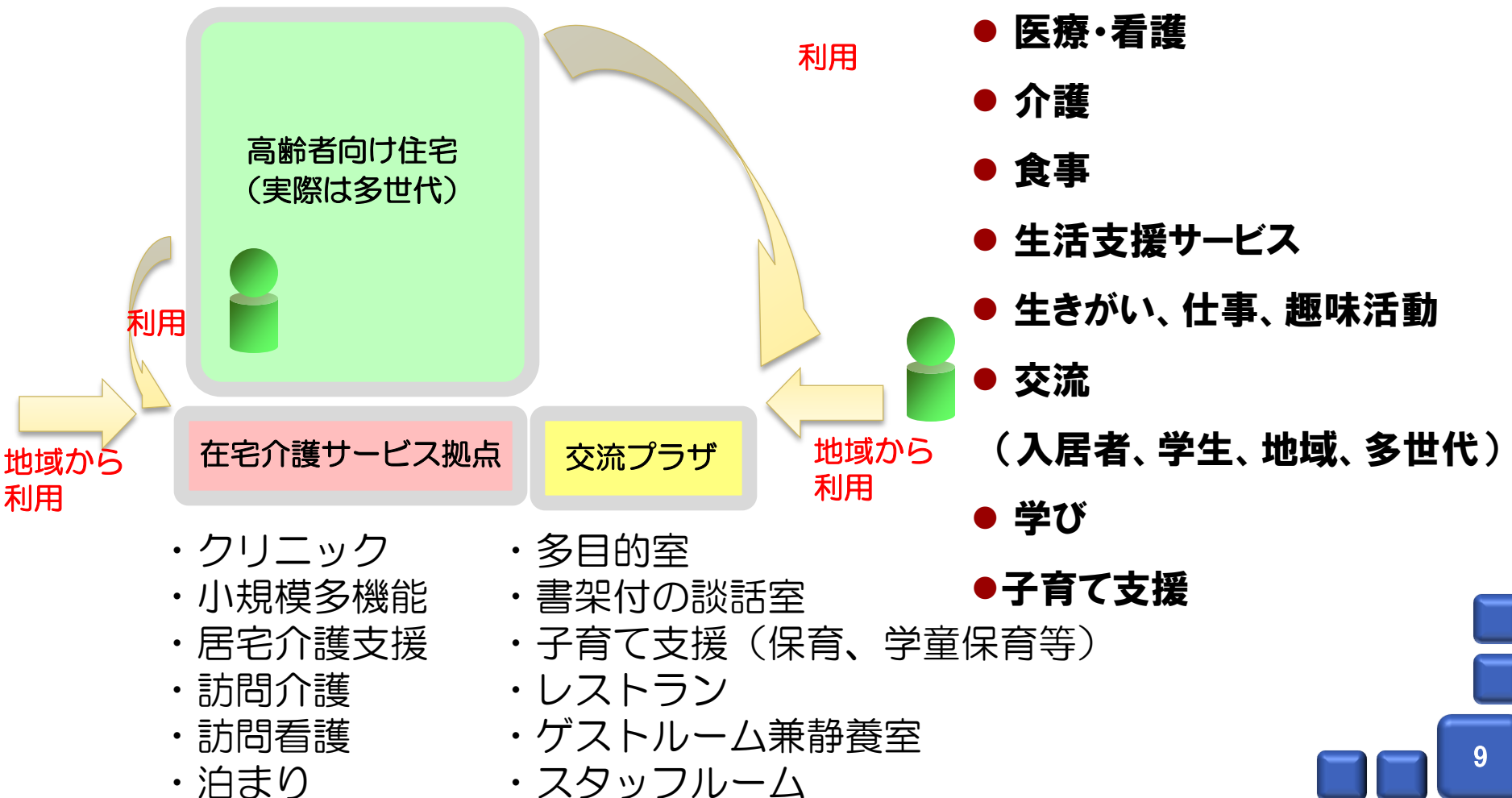
必要な4要素(検討を深め、持続可能なコミュニティの定義をしたい)

- 生まれてから完成期までコミュニティの人たちが人間としての尊厳を失わずいきいきと生活できる仕組みができています。ケアの仕組みだけでなくQOLを高めあう仕組みである。
- できるだけ地域コミュニティ内部で経済を循環させ、可能な範囲で自給自足する。持続可能な範囲で生活・消費するため、地域が持つ未利用資産の価値を高め、上手に使っている。
- 自然資産、人的関係資産、社会関係資産の向上につがる事業を行い、地域を豊かにするだけでなく、地域の外にも魅力ある商品として提供し、貨幣での富も生み出している。厳密な試算は難しいは、消費する資産を上回る資産を生み出していることが必要
- コミュニティ外の生産者に、多くの持続可能なコミュニティをめざす地域と連携して、連携した地域の購買力・継続利用を背景に、持続可能性に配慮した製品の提供を要求したり、世界の持続可能性を高めるため法や制度の改善を要求したりする活動を日常的に行なっている。

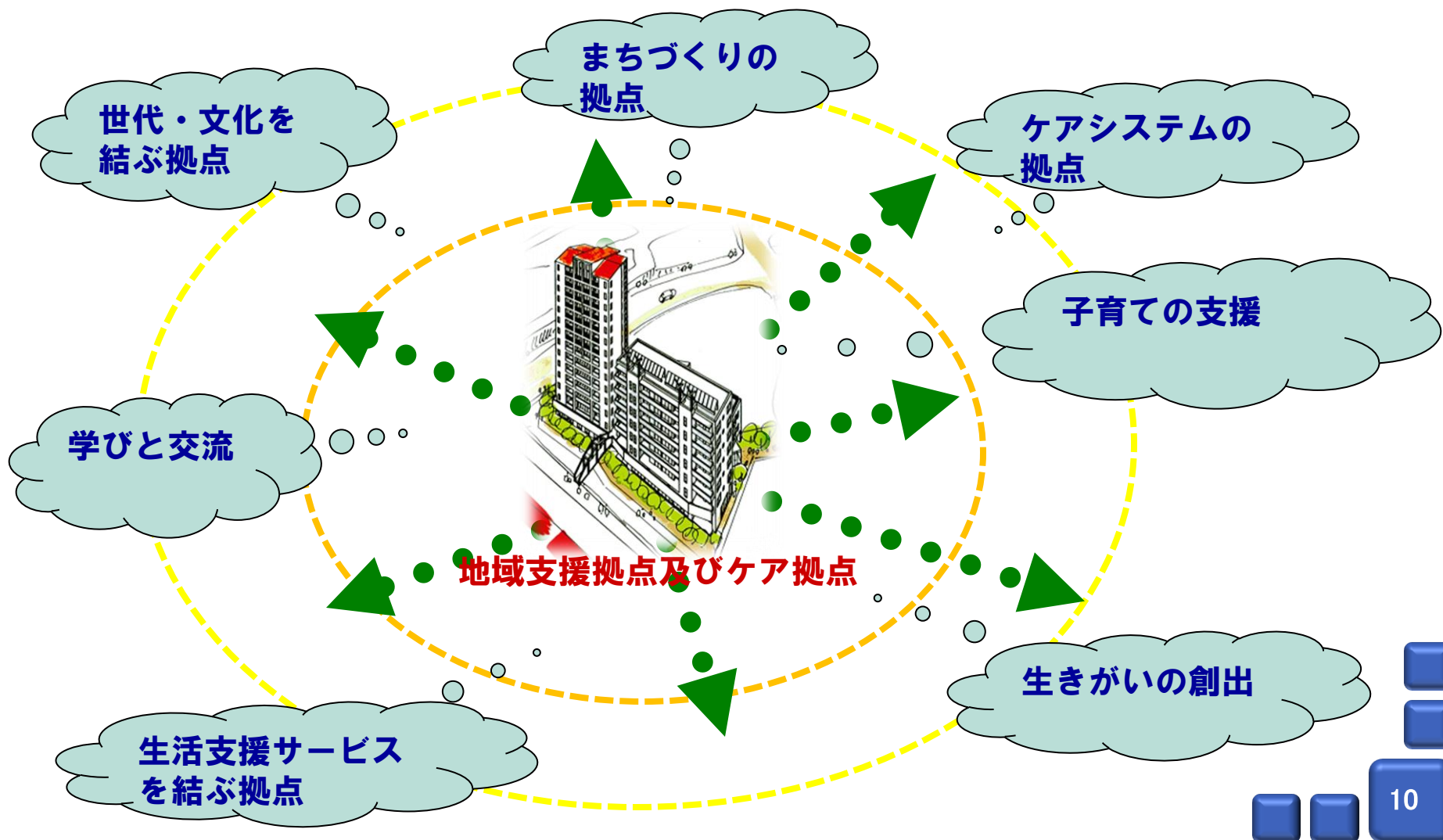
人は見たもののしか信じない → 都会に実験場を作るプロジェクト

- 自然資産の少ない都会では、持続可能なコミュニティを作るのは難しい。
- 人間関係資産を増やし、蓄積できるようなコミュニティを作りたい。そのベースは(株)コミュニティネットの事業にすでにある。
- (株)コミュニティネットが取り組んでいる団地再生や高齢者施設の整備に、持続可能性を高める要素をどれだけ組み込めるかの検討を開始。
- 農のある生活、自然エネルギーの活用、自然の光や風をうまく活用する住居などさまざまな要素がある。後述するシェアリングも大きな要素。

1階に配置する交流プラザは地域の住民も利用可能で、子育て世帯も含めた若葉台のコミュニティを育む一つの「場」となる。



地域に開放されたまちづくりの拠点施設を整備



「企画からの参加」 / 「セルフビルド」 / 「シェアリング」

- **そこに住もうという人が施設を作る企画から参加し、みんなで住まい方を考えて、どのような施設にするかを決めていく。**
(自分たちがどう暮らしたいかだけでなく、環境に配慮した暮らし方ができるかも大いに考える)
- **施設を作ることも、管理することもできるだけ住民参加で行なうことで、コストも下がり、満足度も上がる。**
- **できるだけシェアする暮らしを設計する。ひとりひとりが暮らす空間はなるべく小さくし、共有スペースを充実させ、環境負荷を下げながら豊かな暮らしをする。**

「共有部の充実」／「地方との連携」

- 共有部の充実のキーワードはアートである。作品としてのアートでなく、そこに住む人たちの「美意識」や「粋」といったものと結びついたアートである。この共有部の充実を個人の生活にフィードバックする仕組みが必要である。たとえば、共有部の 陶器に感動して自分でもやってみる・・・といったフィードバックや、共有部の絵に感動して同じ作家の絵を自分の部屋に飾り、豊かな気持ちになる、といったフィードバックである。これをどのように作っていくか？
- 都会では自給は難しいので、持続可能なコミュニティを地方で作ろうとしている団体等と連携していく。具体的には地方の豊富な自然で作られた食料等を効率的に調達し、施設内で活用する仕組みを作る。都市型でも若干の畑なり水と親しむ空間を確保することが重要で、その空間と地方との関連も考慮する。

実現するもの

- 高齢者の方々などと、環境負荷の低い、持続可能な暮らしをしたい人が気持ちよくいっしょに暮らせる居住施設を作る。

そのために

- エコヴィレッジのネットワークなどを母体に、持続可能な暮らしをしたい人向けのネットワークを作り、(社)コミュニティネットワーク協会が情報提供や相談で作っている高齢者等のネットワークと連携させる。
-
- 「都市部で持続可能コミュニティを作るネットワーク」の発足
(2010/04 株式会社コミュニティネットと協定締結)

多摩市聖ヶ丘

- 医療連携(とぎれないケア)および生活支援との連携が大きな特徴。会員制ホテルサービスにも取り組む。

日野市多摩平

- URのルネサンス計画の第一号、建物の躯体だけ残して内装など総入れ替えして別の用途にも使う。これが成功すれば今後の団地再生に大きな力になる。

- ルネサンス計画第2号ひばりが丘など東京、神奈川で連携

多摩平の施設のイメージ



専有部分 ↑
どう住みたいか？ 自分で決める
(生活にあわせ間取り変更、住み替えも容易)

1階と増築部分に共有部分 ↑
地域の活性化や生活支援システム
何が必要か？ 自分たちで計画
(コミュニティビジネスの拠点、レストラン・・・)

聖ヶ丘団地再生・社会実験 ～医療・介護から生活までのワンストップサービス～

